

令和 3 年 6 月 29 日現在

機関番号：28002

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05568

研究課題名（和文）太平洋島嶼国の高度実践看護師教育との融合を目指したグローバル教育の開発

研究課題名（英文）Development of Glocal Education aimed at blending with advanced practical nurse education in Pacific island countries

研究代表者

神里 みどり (Kamizato, Midori)

沖縄県立看護大学・保健看護学研究科・教授

研究者番号：80345909

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、島嶼県沖縄と太平洋島嶼国の高度実践看護師教育との融合を目指したグローバル教育の開発を目指すことである。太平洋島嶼国における、島嶼・へき地に特化した高度実践看護師教育は、大学院でのプライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした、ナースプラクティショナー（NP）教育が主であった。島嶼・へき地で活動するNPは、地域住民に密着した、あらゆるライフスパンに応じた高度な看護実践を提供していた。グローバル教育の導入は、国内での島嶼看護の大学院教育と継続教育等をコアに、国外の大学院教育との融合、さらに国際学会との連携や情報共有を図ることで、島嶼看護の人材育成と学術的発展に寄与できると考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

太平洋島嶼国における高度実践看護師の教育課程が明確になることで、本邦の島嶼看護学の教育課程にグローバルな視点を取り入れ発展的なプログラム構築に寄与できると考える。さらに、太平洋島嶼国や国内での島嶼看護に関連した高度実践看護師の活動成果を明確にすることで、マンパワーの少ない島嶼・へき地における専門職の人材育成・人材確保につながる。これらの国内外の知見を統合することで、学術的な島嶼看護に関する学問体系が明確になり、島嶼看護学の発展に寄与でき、かつ島嶼国日本から発信できる新たな学術的交流の基盤づくりにも貢献できると考える。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this study is to develop glocal education aiming at integration with advanced practical nurse education in Okinawa, an island prefecture, and the Pacific island nations. In the Pacific island nations, the education of advanced practical nurses specializing in rural areas including islands was mainly nurse practitioner (NP) education based on primary health care at graduate school. NPs, which are active in islands and remote areas, provided advanced nursing practices that are closely related to local residents and are suitable for all life spans. The introduction of glocal education will be centered on graduate education and continuing education for island nursing in Japan, and will be integrated with graduate education overseas, and by coordinating with international academic societies and sharing information, human resource development for island nursing will be achieved. We think it can contribute to academic development.

研究分野：島嶼保健看護教育

キーワード：島嶼看護 グローバル教育 太平洋島嶼 高度実践看護師教育 ナースプラクティショナー ルーラルリモート

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

本学は太平洋に開かれた、39 の有人離島を有する島嶼県沖縄にある。その特徴を活かし、大学院教育で、島嶼看護に特化した高度実践看護師教育課程を平成 20 年度から約 10 年以上行ってきた。その中でも、平成 27 年度からは、プライマリケア分野での島嶼看護を専門とするナースプラクティショナー (NP) 教育課程を開設し、日本看護系大学協議会へ申請中である。これらの教育課程を発展させるべく、太平洋地域に開かれたグローバルと沖縄のローカルな視点を融合した島嶼看護の教育課程の開発を目指し、国内外への島嶼看護学の発展につなげる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、島嶼県沖縄と太平洋島嶼国の高度実践看護師教育との融合を目指したグローバル教育の開発を目指すことである。

39 の有人離島を有する沖縄県の特徴を活かし、県内島嶼看護を基盤としたローカルな視点と沖縄近隣の太平洋島嶼国で展開されている高度実践看護師教育の特徴を明確にする。これらの知見から、島嶼看護学におけるグローバルとローカルな視点を融合したグローバル教育の開発を目指す。さらに、その成果を島嶼国日本から発信するための基盤づくりをする。

## 3. 研究の方法

### (1) 太平洋島嶼国で展開されている高度実践看護師の大学院教育に関する情報収集

ルーラル (へき地)・リモート (遠隔地) 教育に優れている豪州、ニュージーランド、カナダ、ハワイ等を中心に展開されている島嶼看護に係る大学院教育カリキュラムの文献レビューや大学のホームページの参照、ならびに学会参加により情報収集を行った。

### (2) 太平洋島嶼国等で高度実践看護師教育を展開している大学訪問と教育内容の現状調査

カナダの大学やハワイ大学で開講されている、ルーラル看護に特化した、NP や DNP (Doctor of Nursing Practice) 教育プログラムの実際や継続教育について訪問調査を行った。

### (3) 太平洋島嶼国や国内島嶼で活躍している高度実践看護師の活動状況の現状調査

ハワイ大学の DNP 教育課程を修了した NP の活動について訪問調査を行った。国内では、島嶼看護の教育課程修了者に対するインタビュー調査と離島での現地調査を行った。

### (4) グローバルとローカルな視点を融合した島嶼看護のグローバル教育の開発

これまでの研究知見や有識者との議論を統合し、島嶼看護のグローバル教育の提案を試みた。

## 4. 研究成果

### (1) 太平洋島嶼国で展開されている高度実践看護師の大学院教育に関する情報収集

ルーラル・リモート教育で優れているカナダ、豪州、ニュージーランドで展開されている島嶼看護の大学院教育に関する文献レビューを行った。主にルーラル・リモートのキーワードが抽出され、大学院博士前期課程での NP 教育が行われていた。それと同時に、一般看護師を対象とした継続教育としてのルーラル看護に特化した認定レベルの教育も展開されていた。特に、小児から高齢者、予防から終末期まで横断的にケアできるプライマリヘルスケアを基盤とした教育カリキュラムや遠隔教育が構築されており、本大学院の教育内容と類似していた。実習時間は本学より海外の方が多く、さらに家族看護や慢性疾患の科目が強化されていた。

ルーラル・リモート看護に関する太平洋島嶼国を中心とした諸外国の学会に参加し、大学院教育に関する情報交換、ならびに学術的な情報収集を行い、人的資源の確保に繋げることが

できた。参加した 5 学会は、次に示した豪州、ニュージーランド、米国、台湾の 4 カ国であった。 **Annual National CRANA(Council of Remote Area Nurses of Australia) Conference(豪州)**、 **National Rural Health Conference(ニュージーランド)**、 **International Rural Health and Rural Nursing Research Conference(米国)**、 **Annual Conference Asian American/ Pacific Islander Nurses Association(ハワイ)**、 **Asia-Pacific Nursing Research Conference(台湾)**。学会に参加することで、教育・研究者や実践者との交流、ならびに各国の現状が理解でき、本邦への島嶼看護への応用や学術的交流の基盤づくりとして有用であった。

## (2) 太平洋島嶼国等で高度実践看護師教育課程を展開している大学や修了生の訪問調査

ルーラル看護に特化したカナダの大学とハワイの大学訪問、ならびに修了生が在職している施設訪問を行い、教育内容の実際や修了生の活動状況について聞き取り調査を行った。

2017 年 9 月 21 日(木)～27 日(水)に、カナダにあるサスカチュワン大学とノーザンプリティシュコロンビア大学の 2 カ所の大学訪問を行った。サスカチュワン大学のプライマリケア NP 教育課程では遠隔教育がかなり活用されており、大学全体での遠隔システムが充実していた。例えば、遠隔地にある数カ所の大学に在籍している学生に対する授業や演習など、すべて遠隔システムが導入されており、大学の中央管理での遠隔教育体制が構築されていた。

特に技術演習など、人間と等身大の遠隔ロボットを活用して、遠隔地での学生の細かな技術指導や確認等が行われており、画期的であった。病院実習でのカンファレンスにおいても、遠隔システムを活用して、独自のモバイル機器を使って、どの病院でも教員が遠隔で参加できる体制が整えられていた。ノーザンプリティシュコロンビア大学では、国からの助成金を得て、ルーラル地域で活動できる一般看護職のための継続教育プログラムを長期にわたり継続して行っていた。

2019 年 3 月 24 日(日)～31 日(日)に、ルーラル看護に特化した臨床看護学博士(DNP)の大学院教育を行っているハワイ大学(ヒロ校)の訪問調査を行った。参加者は修了生 1 人、教員 3 人であった。ハワイ大学(ヒロ校)の DNP 教育課程は、すべてオンライン教育で、システム化された ICT による e-learning 教育が導入され、通学しなくても遠隔で学習できる環境が整っていた。演習などは WEB カメラによる実技確認、試験、さらに実習は居住する地域で実践し、実習施設でのプリセプターによる実習指導が行われていた。1 年に 1 回は 1 週間のみ、大学に来学し学生・教員間の交流の場を設けていた。DNP の博士論文の内容は、所属する組織や地域などの課題を解決していくプロジェクト研究が行われていた。DNP の修了生は、オアフ島のクリニックやハワイ島の州立病院、緊急ケア診療所、大学の保健室、看護短大等の多様な場で活動していた。

## (3) 太平洋島嶼国等のルーラル・リモート教育や高度実践看護活動の実際と情報発信

学会参加や訪問調査で交流した、カナダ、豪州、ニュージーランド、ハワイから、ルーラル・リモート教育課程の教育・研究者ならびに NP の実践者を招聘し、公開講座や懇談会を実施した。交流の場を設定することで、在学生・修了生、教員等とのディスカッションによる情報共有や課題の共有、ならびに継続教育の位置づけが可能になりキャリア開発の一助になった。

2018 年 1 月 6 日(土)に、訪問調査を行ったカナダの 2 カ所の大学からルーラル看護の教育研究者 2 名を招聘し、公開講座の開催や修了生と看護職者との懇談会を開催し情報共有を行った。講演内容は「カナダにおけるルーラル・ナーシングの教育と実践」と題し、2 部構成で行った。1 部が「ルーラル・ナーシング NP 教育と実践: Mary Andrews, RN(NP), PhD」、2 部が「ルーラルナーシングの継続教育と実践: Lela Zimmer, RN, PhD」であった。県内外から 53 人の参加があり、講演内容の満足度は 96%であった。講演会後の翌日に開催した懇談会では、修了生や看

護職者の実践活動の状況や課題などが話し合われ、国内外の視点から島嶼地域で実践活動を行っていく意義と動機付けが強化され、次の活動の原動力になっていた。

2018年3月16日(金)と18日(日)の2日間、豪州からNPを招聘し、「豪州の島々におけるNPの役割と実践活動：Doune Heppner, NP」と題し、本大学内と離島の久米島病院内で、公開講座を2回開催した。参加者は63人で満足度は96.8%であった。豪州の島々で活動するNPは沖縄県の島々で活動するNPと類似した活動を行っていた。例えば、診療所内での看護活動だけでなく、島内の地域での住民の生活文化に溶け込んだ、あらゆる対象者に対する実践活動を行っていた。但し、豪州のNPは初期診断の対応や医療行為(処方権)などが可能であり、より自律した役割を担っていた。その他に、地域住民に対する健康教育や経済的支援活動等も行っていた。

2018・2019年4月に学部学生80人と地域看護の教員を対象に豪州のNPによる遠隔システムを活用した公開授業を行った。豪州のリモート地域の職場から、NPの実践活動を生中継しながら、診療所での一人勤務での役割、さらに診療所内の診療環境や救急カーの中に装備されている医療器具や設備の様子をWEBカメラにて配信しながら講義が展開された。NPという職業を初めて耳にした学生が多く、NPの役割や活動の理解と今後の職業選択の幅が広がっていた。

2019年度にコロナ感染拡大の影響で中止となった国際シンポジウムの企画を、2020年度にオンライン国際講演会(3回)に変更し開催した。県内外から延べ130人の参加があった。

第1回目は、2020年12月19日(土)に、豪州からルーラル看護の専門家である、Sabina Knight先生を招聘し、「豪州ルーラル・リモート地域の高度実践看護師の人材育成への挑戦」と題して、豪州におけるNPの人材不足やその課題解決に向けた取り組み、さらに教育をうける大学院生の生活背景に関する課題等の講演が行われ、日本における課題と重なる現状が理解できた。

第2回目は、2021年1月24日(日)に、ニュージーランドからルーラル看護の研究者である、Jean Ross先生を招聘し、「ニュージーランドのルーラル地域で活躍する高度実践看護師のストーリー」と題して、ナラティブ研究を基盤にした研究成果が紹介された。高度実践看護師のストーリーには、ルーラルでの役割への愛、人々への関心、ルーラルへの尊敬の念が語られていた。

第3回目は、2021年2月7日(日)に、ハワイ島でDNP教育を実践しているAlice Davis先生を招聘し、「ハワイ島ルーラル地域でDNPプログラムを確立するための挑戦と成功」と題してハワイ大学のDNP教育プログラムの概要やその成果、ならびに米国本土への教育プログラムの波及効果の紹介があった。これらの結果は本邦でも応用可能性が高い内容であった。

#### (4)国内の島嶼地域で活動する高度実践看護師の実践活動と講演会の開催

島嶼地域で活動する本大学院の修了生に対して、教育課程の評価や高度実践看護師の活動状況に関するインタビュー調査を行った。さらに島嶼地域で活躍する修了生と活用する側の管理者を交えた、実践活動の報告とその評価について講演会を開催した。

大学院の島嶼保健看護教育課程の評価を明確にする目的で、2017年7月～8月に、島嶼保健看護教育課程を修了した全修了生9人を対象にインタビュー調査を行った。調査内容は大学院教育からの学びやカリキュラムへの改善点等の意見、修了後の活動や今後の展望についてであった。主な結果を質的帰納的に分析してカテゴリー化した。【 】はカテゴリーを示す。

主な結果は、「教育プログラムに対する肯定的な評価」「プログラムに対する改善点」「プログラム修了後に実践している活動」の3つであった。「教育プログラムに対する肯定的な評価」では、遠隔システム等の【学びを後押しする環境】、島嶼で必要な疾患や看護を包括的に学べる座学の構成や包括的な実習経験等の【島嶼実践に活かせる教育プログラムの編成】、調整や連携方法等の【大学院教育プログラムから得た学び】の3つのカテゴリーから構成されていた。

「プログラムに対する改善点」では、単位数が多くゆとりがない、柔軟な科目選択の必要性等の【学びを充実させるための科目の内容、時間、方法の整理が必要】、勤務先からの勤務調整や実習調整へのサポートが必要、図書館利用の難しさ等の【学びを後押しする環境の改善】、相談できる場や継続教育等の【修了後の活動に対するサポート】の3つのカテゴリーが抽出された。

「プログラム修了後に実践している活動」では、エビデンスに基づいた看護実践や他職種連携等の【高度実践看護師の役割に即した実践】、委員会の設立、地域や修了生とのネットワークの設立等の【島嶼を支えるネットワークの場の形成】の2つのカテゴリーが抽出された。

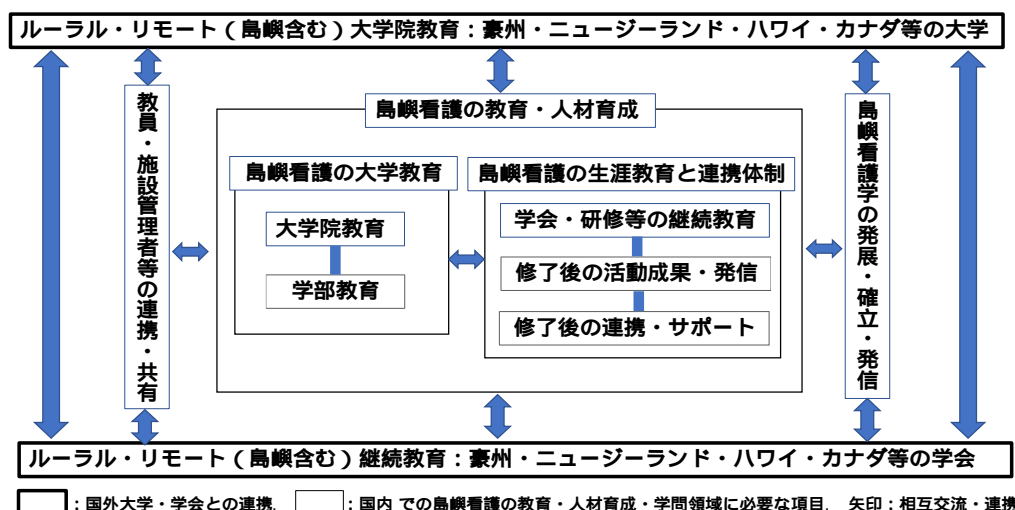
本大学院の島嶼看護に特化したNP教育課程を修了し、かつNP資格認定を受けた全修了生4人の実践活動を明らかにする目的で、2019年5月～2020年2月にインタビュー調査を行った。主な結果として、島の限られた資源を活用したNPの看護実践として、4つのカテゴリーが抽出された。NPは【島の地域特性を理解】しつつ、【限られた資源を把握】し、これらを基盤に【島のみんなでケアを共有する】視点で【島の中で工夫しながら多岐にわたる看護を展開】していた。なお、多岐にわたる看護の展開は、＜臨床判断に基づくアセスメント＞、＜天候に左右される搬送の判断＞、＜生活に入り込んだ個別的な関わり＞、＜実践を変革するための仕組みづくり＞、＜島内医療者間の情報共有＞、＜早め早めの意思決定支援＞、＜死に場所へのこだわりの理解と希望を支えるケア＞、＜島外医療者からのコンサルタント＞、＜島内多職者への教育＞の9つのサブカテゴリーから構成されていた。このようなNPの看護実践は、日本看護系大学協議会が認定している、NP教育課程のプライマリケア看護分野の教育目標や、Hamricらの米国のプライマリケア分野NPのコンピテンシーに位置付けられていた。

2020年2月17日(月)に、本大学院の修了生による高度実践看護師の活動報告会を開催した。学内外から約40人の看護職者や教員が参集し活発な討議が行われた。発表者は4人で、久米島、南大東島、伊平屋島、石垣島の各島々での実践活動と活用する側の管理者からの報告で、参加者からは、講演内容の満足度が84%、今後の仕事に活かせると回答した者が90.6%であった。

#### (5) グローバルとローカルな視点を融合した島嶼看護のグローバル教育の開発

これまでの研究結果を統合し、下記の図を考案した。今後の発展的活用と検証が必要である。

図．国内における島嶼看護のグローバル教育の開発と人材育成



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>知念真樹、神里みどり   | 4. 巻<br>22          |
| 2. 論文標題<br>ニュージーランドで開催されたNational Rural Health Conference2017参加報告 - へき地医療従事者と継続教育・ネットワーク構築と担い手育成の場としての学会 - | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>沖縄県立看護大学紀要   | 6. 最初と最後の頁<br>85-87 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-           |
| 1. 著者名<br>下地和枝、神里みどり、川崎道子  | 4. 巻<br>14          |
| 2. 論文標題<br>A小離島における慢性疾患の重症化予防優先順位指標の作成と活用法   | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>日本ルーラルナース学会誌   | 6. 最初と最後の頁<br>37-44 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-           |
| 1. 著者名<br>砂川はづき、神里みどり、宮里智子   | 4. 巻<br>14          |
| 2. 論文標題<br>小離島における知的障がいがあるアルコール依存症の母親と子どもの養育に対する多職種支援と連携   | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>日本ルーラルナース学会誌   | 6. 最初と最後の頁<br>29-35 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-           |
| 1. 著者名<br>岡崎実子、前田和子、神里みどり  | 4. 巻<br>19(2)       |
| 2. 論文標題<br>小離島におけるアルコール健康障害対策計画の策定－住民参加型活動を通して－  | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>日本アルコール関連問題学会誌   | 6. 最初と最後の頁<br>85-92 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>清水かおり、神里みどり                  | 4. 巻<br>15          |
| 2. 論文標題<br>離島診療所看護師の学習環境の現状と課題         | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>へき地・離島救急医療学会誌                | 6. 最初と最後の頁<br>24-29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>神里みどり、川崎道子、宮城恵子                    | 4. 巻<br>58(11)        |
| 2. 論文標題<br>島嶼保健看護の高度実践看護師教育の実際 <前編> カリキュラム概要 | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>看護教育                               | 6. 最初と最後の頁<br>928-933 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし               | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       | 国際共著<br>-             |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>神里みどり、新里裕子、下地和枝                        | 4. 巻<br>58(12)          |
| 2. 論文標題<br>島嶼保健看護の高度実践看護師教育の実際 <後編> 島で活躍する修了生の活動 | 5. 発行年<br>2017年         |
| 3. 雑誌名<br>看護教育                                   | 6. 最初と最後の頁<br>1012-1016 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                   | 査読の有無<br>無              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難           | 国際共著<br>-               |

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 5件）

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>神里みどり、大城真理子、謝花小百合          |
| 2. 発表標題<br>諸外国のルーラル地域で活躍するNPに関する研究の動向 |
| 3. 学会等名<br>第40回日本看護科学学会               |
| 4. 発表年<br>2020年                       |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Mariko Oshiro, Midori Kamizato                                   |
| 2. 発表標題<br>Seeking help for cancer care in rural areas: a literature review |
| 3. 学会等名<br>Transcultural Nursing Society Conference in Japan (国際学会)         |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Midori Kamizato, Yukari Taira, Mariko Oshiro, Sayuri Jahana, Kayo Nagano            |
| 2. 発表標題<br>Evaluation of Primary Care Nurse Practitioner Program for Island Nursing in Okinawa |
| 3. 学会等名<br>American/ Pacific Islander Nurses Association (国際学会)                                |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Sayuri Jahana, Midori Kamizato                         |
| 2. 発表標題<br>Cultural Care for Dying Patients in Okinawa and Taiwan |
| 3. 学会等名<br>American/ Pacific Islander Nurses Association (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>下地ひかり、神里みどり                |
| 2. 発表標題<br>小離島診療所で勤務する看護師の織りなす多様な看護実践 |
| 3. 学会等名<br>日本ルーラルナーシング学会第14回学術集会      |
| 4. 発表年<br>2019年                       |



|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>石垣淳子、神里みどり                    |
| 2. 発表標題<br>離島に派遣される看護師の精神的ストレスと適応を促進する要素 |
| 3. 学会等名<br>日本ルーラルナース学会第14回学術集会           |
| 4. 発表年<br>2019年                          |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>神里みどり                                  |
| 2. 発表標題<br>島嶼保健看護に特化した高度実践看護師教育の実際と修了生の活動         |
| 3. 学会等名<br>第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会学術大会シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2019年                                   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>神里みどり                        |
| 2. 発表標題<br>日本のNP教育とその実践像にむけて            |
| 3. 学会等名<br>2019年東京女子医科大学大学院FDセミナー（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2019年                         |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Midori Kamizato, Tomoko Miyazato, Keiko Miyagi, Kazuyo Uehara, Sayuri Jahana   |
| 2. 発表標題<br>The developing primary care nurse practitioner program for island nursing in Okinawa, (2017), 14th Annual conference Asian , Honolulu. |
| 3. 学会等名<br>American/ Pacific Islander Nurses Association (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2017年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Sayuri Jahana, Midori Kamizato                       |
| 2. 発表標題<br>Cultural Care for Dying Patients in Islands          |
| 3. 学会等名<br>American/ Pacific Islander Nurses Association (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2017年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>砂川綾子、神里みどり                           |
| 2. 発表標題<br>中核離島支援病院内のICTを活用した小離島診療所看護師への支援体制の構築 |
| 3. 学会等名<br>日本ルーラルナース学会第12回学術集会                  |
| 4. 発表年<br>2017年                                 |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>下地和枝、神里みどり、川崎道子                     |
| 2. 発表標題<br>小離島における慢性疾患の重症化優先順位指標と看護サマリーの作成と活用法 |
| 3. 学会等名<br>日本ルーラルナース学会第11回学術集会                 |
| 4. 発表年<br>2016年                                |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>新里裕子、神里みどり、川崎道子                     |
| 2. 発表標題<br>小離島診療所看護師に対する慢性疾患の療養指導研修の導入に向けた取り組み |
| 3. 学会等名<br>日本ルーラルナース学会第11回学術集会                 |
| 4. 発表年<br>2016年                                |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>砂川はづき、神里みどり、宮里智子                          |
| 2. 発表標題<br>小離島における知的障がいのある母親のアルコール依存と子どもの養育に対する多職種支援 |
| 3. 学会等名<br>日本ルーラルナース学会第11回学術集会                       |
| 4. 発表年<br>2016年                                      |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

|   |
|---|
| <p>ホームページの開設（日本語版/英語版）公開講座や講演会、視察訪問の情報公開<br/> <a href="https://opglocal.com/">https://opglocal.com/</a></p> |
|---|

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                        | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                    | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 謝花 小百合<br><br>(Jyahana Sayuri)<br><br>(30647003) | 沖縄県立看護大学・保健看護学研究科・准教授<br><br><br>(28002) |    |
| 研究分担者 | 上原 和代<br><br>(Kazuyo Uehara)<br><br>(70406239)   | 沖縄県立看護大学・看護学部・准教授<br><br><br>(28002)     |    |
| 研究分担者 | 知念 真樹<br><br>(Chinen Maki)<br><br>(60796754)     | 沖縄県立看護大学・看護学部・講師<br><br><br>(28002)      |    |

## 6. 研究組織（つづき）

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)       | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|-------|---------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 大城 真理子<br><br>(Oshiro Mariko)   | 沖縄県立看護大学              |    |
| 研究協力者 | 永野 佳世<br><br>(Nagano Kayo)      | 沖縄県立看護大学              |    |
| 研究協力者 | 源河 朝治<br><br>(Genka Tomoharu)   | 沖縄県立看護大学              |    |
| 研究協力者 | 宇地原 大海<br><br>(Uchihara Hiromi) | 沖縄県立看護大学              |    |
| 研究協力者 | 平良 由香里<br><br>(Taira Yukari)    | 沖縄県立看護大学              |    |

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

|   |                    |
|---|--------------------|
| 国際研究集会<br>カナダにおけるルーラル・ナーシングの教育と実践           | 開催年<br>2018年～2018年 |
| 国際研究集会<br>豪州の島々におけるNPの役割と実践活動               | 開催年<br>2018年～2018年 |
| 国際研究集会<br>豪州ルーラル・リモート地域の高度実践看護師の人材育成への挑戦    | 開催年<br>2020年～2020年 |
| 国際研究集会<br>ニュージーランドのルーラル地域で活躍する高度実践看護師のストーリー | 開催年<br>2020年～2020年 |
| 国際研究集会<br>ハワイ島ルーラル地域でDNPプログラムを確立するための挑戦と成功  | 開催年<br>2020年～2020年 |

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|